

困ったときは DBCLS/NBDC へ

～素人教育者による知の情報拠点の利用

井本 逸勢 （徳島大学大学院 医歯薬学研究部人類遺伝学 教授）

生命科学研究の発展において、様々なデータベースやデータ解析ツールの活用は欠かせない。

ゲノム解析研究などの成果の医学・医療分野での実用が広がり、ゲノム情報などマルチオミックス情報の社会実装による個別化医療への応用が進む状況では、研究者でなくともこの分野に関わる者は、オミックス情報の知識やスキルを必要とされてきている（せめて、ドライ系の方々と同じ言葉で話せるくらいには！）。

一方で、忙しい自身の研究活動の合間でこのような領域の教育が可能な人材は限られているように思われる。自分自身も、データベースの専門家でもましてやコンピュータの知識もなく、地方の医学部で医科学研究と基礎医学教育に携わっているひとりのユーザーである。しかし、ゲノム研究を行っていれば、いやおうなしに質問も飛んでくるし、将来の生命科学研究や医学・医療を担う学生に教育していきたいと思ってしまう。個人的には、教育というのはノウハウの塊であると思っているために、これを先ず自分で学ぶことも必要と、せっせと講習会などに出かけていくことになる。その中で、バイオサイエンスデータベースセンター（NBDC）やライフサイエンス統合データベースセンター（DBCLS）に提供していただいている講習会・セミナーや Web コン

テンツは、日本語で提供される優れたもので、本などで得ようとするとは何倍もの時間と苦痛を伴う知識やスキルを、短時間で習得可能である。動画やハンドアウトで教えることもできるし、自習や小グループでの学習も可能で、これらが必要な時期に必要なだけ行える。NBDC の統合データベース講習会も 2014 年には AJACS 阿波と称して徳島で開催してもらえ、学生から教官まで満員御礼になった。この講習会は、各地での様子を動画で追いかけていくとデータベースやツールの機能・内容の更新状況も知ることができ、これらに関する情報のアップデートに便利になっている。開催が週末や休暇期間中にあたれば、積極的な学生が出かけていくようにもなってくれた。参加して生を見てきたものがいれば、後日提供される教材や動画を用いて、小グループでチューター付き「朝練」もできる。

地方でかつ専門家がいないうちで、生命科学研究・教育を行って行く上で、高度な NBDC の機能を使えるようになるための様々なコンテンツまで用意していただければ利用可能なのは、素人教育者にはたいへんありがたく、今後も日本語で利用可能な生命科学研究の知の情報拠点として引き続き活動を続けていただきたい。